



東京都羽村市羽4122-2 電話 042-554-7800

氷山の一角

校長 鳥居 夕子



現在、東京都の新型コロナウイルスの感染状況と医療提供体制の警戒レベルは最も低いレベルです。二つの指標がそろって一番低いレベルになったのは、今年の7月から行われている都のモニタリング会議で、今回が初めてということです。しかし、新たな変異種が発見されるなど、まだ安心・安全な日常が戻ってきたわけではありません。学校では状況を見極めながら、「できる時にできること」を探っていこうと考えています。



こうした現状を受け、本校では、11月26日（金）と27日（土）に『松林フェスタ』を開催。子供たちの個性あふれる作品の展示と音楽の発表を行いました。保護者の皆様には、当日音楽発表を鑑賞していただくことはできませんでしたが、動画配信等をさせていただきました。

『松林フェスタ』での発表は、見事に子供たちの内面や心を引き出していました。国語や算数などの授業では、自信をもって発表するのが苦手な子供も仲間と一緒に声を揃えて歌ったり、リズムに合わせて楽器を演奏したりする姿がありました。作品では、同じ題材であっても表現の仕方は様々、一人一人の個性があふれていました。『松林フェスタ』は私たち大人に、日頃の言動、学習の評価はその子供の一部分にすぎないこと、潜んでいる部分こそ「その子らしさ」があることを改めて感じさせてくれました。

さて、人の内面や心の有り様、思いを知るために、以前から私自身が気を付けていることがあります。その一つに、安易に「大丈夫？」と聞かないよう心掛けることです。普段と様子が違う人を見かけた時、つい「大丈夫？」と声を掛けてしまいがちです。「大丈夫？」と聞かれた相手は、こちらに気を遣わせたり、心配をかけてしまったりしていることを察知し、反動的に「大丈夫です」と答えてしまいます。また、「大丈夫ではない」けれどそれを説明するだけのパワーも失われている場合もあります。これは、子供でも同じです。そんな時「大丈夫？」の代わりに「どうしたの？」「何があったの？」と耳を傾けるように意識しています。そう聞かれても自分の思いを伝えるのは、案外難しく、大人でもごまかしてしまうことが多いものです。それが子供であればなおさらです。「本心」を引き出すには、声掛けを変えるだけでなく、大丈夫ではない状況を具体的に聴くことができるよう環境を整え、十分な時間をかけることも大切です。

小学校の校長として8か月、子供たちの一生懸命さ、真面目さ、純粋さに触れるたび、心底この子供たちを社会の一員として育てていくことの重責を感じています。また、同時にその重責を与えられたことに喜びも感じています。子供を守るのは大人の仕事です。保護者・地域・学校が一つになって、子供たちを守り、育てていきましょう。

